



# やませみ

学校だより（特別号）

令和5年11月2日

伊豆市立中伊豆小学校

文責 後藤亜希子（教頭）



## 令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします

全国学力・学習状況調査が4月18日に実施され、本校では6年生が参加しました。本校の児童の長けている点や改善点が見えてきました。ご家庭でもこの結果をふまえ、学習や生活習慣を振り返るよき機会としていただきたいと思います。

### 1 調査結果の概要

#### ① 教科に関する調査結果（本校平均、市平均正答率と全国との比較）

平均正答率	小学校・義務教育学校 6年生		
	国語	算数	理科
R4本校	○	○	○
R5(伊豆市)	○	○	
R5本校	◎	◎	



◎：全国より高い  
○：全国と同程度  
△：全国より低い

上の表は、全国の平均正答率と伊豆市、本校の6年生の結果を比較したものです。全国学力・学習状況調査の目的は、「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子どもたちの学力向上のための取組み(改善)に生かしていくこと」にあります。そこで、今回の結果を受けて、教職員で①どんな力が問われているのかを考察し、②子どもの解答より、実態をつかみ傾向を見て、③どんなことを意識して授業を行うか考えるとともに、各学年段階で身に付けるべき力について話し合いました。本校の分析の一部ですが、ご報告いたします。

上記の通り、2教科とも全国平均を上回る結果となり、本校の6年生は、4月時点で、国語、算数共に概ね良好な状況にあることがわかりました。しかし、中には無解答率の高い問題もありました。原因として、資料から必要な情報を得ることが難しく、問題の意図がつかめなかったこと、一問一問じっくりと解こうとした結果、時間配分がうまくできなかったことなどが考えられます。資料から、問題を解くために必要な情報を読み取る力、問題全般を一通り見てから取り組むことで見通しを立て、時間の使い方を自分で判断できる力を身につけることも大切だと考えました。今後の指導に生かしていきます。

### 【国語】

本校では多くの項目で、平均点を上回っています。特に、「送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題では、「比らべて」「比べて」「比て」の選択肢から適切なものを選ぶことができていました。また、「文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる」問題では、「推薦文」「提案文」「説明文」「主張文」から適切なものを選ぶことができました。一方で、「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる」問題では、無解答率が高く、80字以上100字以内にまとめて書く、条件に合わせて書くなど「書くこと」に課題があることがわかりました。今後は、日常の言葉や文字を正しく使うこと、条件に合った文章を書くこと、相手意識をもって書くこと、接続語などの使い方を意識して書くことなど、授業において振り返りや感想を書いたり、作文したりする指導を通して身に付けていきます。

裏面へつづく

## 【算数】

「数と計算」「変化と関係」の領域の、基礎的・基本的な計算技能はよく身に付いていました。しかし、「記述式問題」では正答率が低くなっていました。特に「高さが等しい三角形について、底辺と面積に関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる」問題では、正答率が著しく低かったです。また、問題を解くためには、前学年までの学習を確実に定着していくことが大切です。市の分析結果にもあるように、見通しを立てる力も必要となってきます。そのような力を付けるためにも、学習指導要領を基に、各学年の身に付けるべき力を把握し、1年間を通じて系統立てて指導していくことを、再度、職員で確認しました。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。

上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊸の面積のほうが大きい。
- 2 ㊹の面積のほうが大きい。
- 3 ㊸と㊹の面積は等しい。
- 4 ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

「書く」力の向上のためにも、正しい接続語の使い方を身に付けたり、自分の思いに即した言葉が伝えられるように語彙を増やしたりしていくことも大切です。また、自分の生活に結びつけ、「学習したことは、生活に生かせる」ということを実感しながら学びに向かうことで、さらに各教科への興味関心を高め、理解を深めていくのではないかと感じました。中伊豆小の子どもたちの実態を把握しながら、授業や家庭学習において、主体的に学びたいと思える環境づくりをしていきます。また、一人一台のタブレット端末を活用した協働的な学びを取り入れ、子どもの「できた」「分かった」につながるような指導方法を一層工夫していきます。今後とも様々な面で、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

## 【児童質問用紙調査結果の傾向】

### 全国や県に比べて高い項目

- タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている
- 今住んでいる地域の行事に参加している



と答えた児童が全国や県の平均よりもかなり高い数値となっています。タブレットについては、授業だけでなく、委員会活動、家庭学習など、使用範囲を広げることで、その便利さを子どもたち自身が実感しているようです。

行事への参加意識が高いこともうれしい結果です。伝統となっている地域行事に幼少の頃より参加し「心」を養ってきた中伊豆小学校の児童ならではの「良いところ」ではないでしょうか。学校と家庭、地域が連携して子どもたちのより良い成長ができるよう、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

### 全国や県に比べて低い項目

- ▲友達関係に満足している
- ▲国語の勉強が好き・よくわかる



友達関係に満足している児童の割合があまり高くないことが気になりました。4月の調査でしたので、クラス替え等でまだ学級の一員という意識が高まっていなかったのかもしれませんが、1学期末のアンケートでは、学校生活を楽しんでいる児童の割合は90%を超えておりますので、改善していると思いますが、毎日学校に行くのが楽しいと思えるよう、引き続き児童一人一人に寄り添っていきます。以下、引き続きご家庭で大切にしていきたいことを4点お願いいたします。

### ○スマートフォンやコンピュータの使い方の約束を守りましょう

ご家庭でテレビゲームの時間や情報モラルなどについて話し合い、ルールを決めましょう。

### ○本や新聞を読みましょう

ご家庭での家族読書を推奨いたします。読書することで「知恵の輪」が広がります。

### ○自分で計画を立てて学習や生活をしましょう

休日にも計画的に学習をしましょう。

### ○子どもの「よいところ」をもっと認めましょう

学校や家庭、地域が連携して子どもの「よいところ」をたくさん褒めて認める場を作りましょう。

